

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200927		
法人名	有限会社 かたやま		
事業所名	グループホーム ひなた 1ユニット		
所在地	赤磐市 殿谷 32-1		
自己評価作成日	平成24年06月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372200927&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成24年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『いつも わたしたちが そばにいます』 利用者の気持ちが一番である事を大切に、一人ひとりある様に、自然な形でひのびとホームの生活をしていただいています。困難な日々があっても 職員全員が、辛い思いをされているのはご本人や家族であることを理解し、寄り添う介護に努めています。『笑顔と会話を大切に』 見慣れた職員の笑顔と声を利用者の気持ちを穏やかにします。日々の生活から生まれた貴重な会話を記録にし、笑顔を画像に残してその方の歴史が宝物となるようさらに続けています。退居されても、ひなたでよかったと家族に言っていただけ感謝し、利用者から学び得た認知症に関わるすべてを介護力にし、それを新たに出会う方や地域に貢献するよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山陽本線熊山駅から車で10分程の殿谷の地にグループホーム「ひなた」を立ち上げて、もう少して早や9年目を迎えると言う。開設間無しの頃の試行錯誤の状況が、今は懐かしく思い出される程この「ひなた」は大きく成長した。元気一杯の利用者と共に活発に出歩いていた時代、一人の利用者の看取りに揺れ動いていた時代、そして、利用者の重度化に直面している今、多くの経験を積み重ね、職員も利用者から多くの事を学び、今や地に足をしっかりと踏みしめている「ひなた」の姿に頼もしさを感じる。もちろん代表者夫妻の大きな視線や地域の方々との理解、協力の賜物でもあろう。利用者・家族、そしてこのホームを取巻く人々と共に協力し合って、この地で「地域づくり」のリーダーとして飛躍しようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定められた理念に沿った介護を実践している。 出来ているとは思いますが、さらに、深く理念を共有するために、わかりやすい言葉で理念の再考をしている。	今まで運営理念を3つ、介護理念を5つ掲げて実践してきたが、「いつも私達がそばにいます」の一言を柱にして焦点を絞り込んだ。「あなたの傍らに寄り添うだけでなく、心の奥底にまでつながりたい。けっして押しつけがましくなく」こんな思いで一日一日を過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出掛けられる方が年々少なくなってしまったが、中学生の福祉学習やチャレンジワーク14などで、交流を図っている。地域包括の介護教室を当ホームで開催する予定。	このホームの幅が大きく広がってきたと感じられる要因の一つは「地域とのつながりが増え絆が強まった」と言う事だろう。地域の人達に助けられ、ホームからの様々な働きかけも地域に貢献できていると言う図が目に見えて明らかになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に、認知症の理解を深めるために、「認知症サポーター養成講座」で当グループホームを紹介した。また、H23.5月、市内5つのGHが主催し、講師を呼び、講演会を開催し、好評を得た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、利用者家族、地域・駐在・消防・訪問看護師の方など多方面の参加を頂き、情報交換をするとともに、ホームへの理解を深めるよう務めている。また、議事録は、玄関に自由配布している。	グループホームの運営やサービスの向上に活かそうと言うこの会議の目標を確実に、そして有効に活用している。記録も綿密で解り易いし、自由配布している事も良い。この地域の中での「ひなた」の役割もこの会議で浮き彫りにされている。	運営推進会議の議事録をホーム玄関で自由配布している事は情報開示の姿勢として大変評価できる。さらに、特に利用者家族に対する積極的な配慮があればもっと良い。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度の詳細などわからないことは、市の担当へ相談し、対処している。又、その際に適切なアドバイスや、励ましていただいている。	運営推進会議へ地域包括支援センターの職員が出席し適切なアドバイスをしてもらっている。日常的には、例えば今回の介護保険制度改正に伴う疑問点など、何でも聞くようにして良い協力関係が伺われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動を制限する行為はしないよう取り組んでいる。外出しそうな様子に、止めるのではなく、話をしながらさりげなくついていく等、自由な暮らしの支援をしている。玄関の施錠はしていない。	身体拘束や虐待といった言葉ではなく、職員間では「自分にされたり言われたりして嫌な事はしない」が暗黙のうちの約束事である。徹底した介護拒否の人とのやりとりの話からもこの約束事は守られていると思えた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加。 身体的虐待はもちろん、心理的虐待不適切なケアについて勉強会を開き学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームに成年後見制度を利用された方が入居されて以来、職員も理解を深めることが出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必ず十分な時間をとって説明をしている。最近では看取りについて、ホームの指針を説明し、個々に理解を得るための意見を伺い随時理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、なるべく詳しく様子報告し、意見を求めている。運営推進会議には、必ず家族に参加してもらい、感想・意見をいただいている。また、利用者の要望から日帰り旅行実現に向けた計画の中。	家族の面会時や連絡を取り合った時、しっかりとコミュニケーションをとって意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議や敬老会の懇談会には家族も参加している。毎月お便りで個々に必要な情報は届けている。	利用者本人や家族から意見や要望を聞くチャンスは幾つか準備されているが、それらを上手くキャッチし、表に出して「家族と共にホームを育てよう」という雰囲気作りには工夫が欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よりよい介護援助になるように、常時、職員からの意見・提案をユニットで話し合う。職員が自主性を持って介護にかかわれるよう小さな工夫も大切な意見としている。	看取り体験や困難事例を力を合わせて乗り越えられた状況もあってか、職員間の意思疎通がとてもうまくできているように感じられる。また、以前からこのホームの事業者は職員の要望にも良く耳を傾け、希望も可能な限り受け入れようと努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面は諸手当、準職制度を取り入れている。勤務体制も希望となるべく取り入れ、緊急時にも対応できるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修があれば受ける機会を確保し、資格取得、能力向上のための期間研修費用に於いての協力を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内他GHに行事のお誘いし参加していただいている。 H23年5月、市内5つのGH主催の講演会を開催することが出来、以来つながる会と称し、2ヶ月に一度意見交流会を続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に対して出来るだけ不安な要因について傾聴し、ゆっくりと向き合う時間を持てるよう努めている。 利用者同士の座席の配慮、役割分担等 配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は家族との連絡、報告を密にしより良い関係となる様 努めている。また意見があれば その都度 話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の性格や気持ちを組み、出来る限り入居者一人ひとりの生活リズム等大切に居心地の良い場所になる様 努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、お膳拭き、洗濯物干し、たたみ、等 声を掛け一緒にし、毎日のコミュニケーションとして取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の体調面は もちろんの事何か特変があれば敏速に家族と連絡を取り合い状況を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にきてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に出かけたり、買い物に行っている。地域のイベント(道づくり掃除、夏祭り、花火大会等)にも積極的に参加している。	利用者の認知症の進み具合によっては、馴染みの人や場の関係継続の支援がなかなか難しい場合も多いが、その人の「笑顔と会話」を引き出すための材料として一人ひとりの人生歴にも職員はよく向き合っている。「そう言えば、昔うちのお母さんは・・・」と家族の協力も得られる事がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中をホールで過ごされる方が多く、利用者同士の談話、助け合いもよく見られ、その方の個性を空気で感じ生き生き・のびのびと過ごしてもらえる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されて後に、ホームに訪れることある。その際は、様子をたずねたり、なにかあれば、いつでも相談に来ていただくよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者で臥床する事を好まれる方、いつでも自由に横たわれる様配慮しホールに居たい方はその様に尊重している。	今日、昼食を頂きながらお喋りした女性達は二人連れ(時には車椅子の人も)で日に何回もお出掛けするので、職員は見つからないよう後を追っている。利用者がホームの日課に振り回される事の無い「ひなた日和」を、職員は格別大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの情報(フェイスシート)をカーデックスに置き、職員全員で情報を共有し、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人が好む事を優先し、心身状態や体調に配慮し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに目を通し 本人、家族からの情報を受け入れ、スタッフからのアイデアを、より良い方向で生かし、個々に即した介護計画を作成する様 努めている。	「ひなたらしい暮らしにつながる、このホーム独自のケアプラン」を実践中である。目標達成計画にも「業務優先はしない。どんな状況の時も笑顔と会話を大切にして、関わった会話を手書きで残そう」と掲げ、よく取り組んでいる。	ケアプラン・モニタリング・カーデックス利用の記録・個別の会話中心の経過記録等、取組中の業務は継続して欲しい。他ホームの事例やアドバイスは参考にしても、職員間で築き上げようとしているケアマネジメントは貴重と思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックスに随時記録し職員間で毎日情報を共有しながら実践していける様取り組み中。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族が困ったことは何でも相談出来る関係を保っていく様 努めている。何かあれば こちらからも連絡をとり、支援に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人々との関わりを持ち、利用者のその日の体調を把握しながら少しでも楽しんでもらえる様 支援に努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が直ぐに来られない時は受診のお手伝いをし、特変があった時等、かかりつけ医と連絡をとり、関係を築きながら適切な医療を受けられる様にしている。	ホームの提携医(内科医)との協力関係は大変良く、また週一の訪問看護の援助も有難い。利用者の重度化に伴い、提携医以外の受診支援が職員の肩の荷となりつつあるのが心配なので、今後の検討課題として欲しい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に特変があれば直ぐに連絡し受診や看護を受けられる様 支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際 病院に情報提供書を提出し相談出来る様 努めて症状、状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院、事務所で できる事を本人、家族の希望、意見を優先し支援に取り組める様努めている。	職員は看取りの経験を重ねてレベルアップもし、精神的にも変化が見られると言う。一人の人の最期のステージを共にし、時には居室の床に布団を敷いて添い寝をした職員の心に深く刻み込まれた事があるに違いない。今後も本人・家族の希望が強く、環境が整えば取り組む予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車到着までの応急手当、連絡等適切に行われる様 避難訓練等 定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難訓練を実施している。地域の方、利用者も参加してもらい取り組んでいる。	運営推進会議に毎回消防署員の参加があり、地域住民共々良いアドバイスや訓練時等の協力が得られているのは大変心強い。スプリンクラーも設置され、大災害へ向けてのマニュアル作りも検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性を把握し人格を尊重しながら時には親しみのある声かけで対応している。	人が生きて行く為の最小限の手助けも拒否してしまう人に対しても、職員はその思いを尊重し、正義を押しつける事なくじっくりと付き合っている。時間を掛け、心を重ねる内に解けていく難題に、「笑顔と会話の薬が効いた」と職員は幸せに感じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴前の着替え準備等、出来る限り自分で選んでもらっているが出来ない時は手伝いをし、困っている事がないかさりげなく尋ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを大切に、出来るだけ希望に添える様 心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさ、好みを大切に支援している。(好みの色、被服の形態等)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に野菜を切ってもらったり、食器洗い、お盆拭きを職員と一緒にしている。家族のご協力を得ながら利用者の好みの物を持ってきてもらっている。	1ユニットは普通食の人が多いが、2ユニットは殆んどの人がきざみ食かミキサー食である。しかも、その日・その時の状態に合わせて、また、少しでも美味しく感じられる工夫をしているので、準備にも食事介助にも特に時間をたっぷりかけている状況である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全ての職員が一人一人の適量を把握し、水分表、食事表で摂取量が分かる様にしている。 気を付けなければならない事は直ぐ申し送っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 各自に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターン、習慣を活かして出来るだけ自立に向け声かけて誘導する様努めている。	「食べる事」を重視しているのと同じ位に、「良い便」にも拘っている。排泄の支援には職員の対応に加えて訪問看護の指導・協力の力が大きい。排泄支援時には特に個々の尊厳やプライバシーにも気を配りながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し一日の食事の中で牛乳、バナナヨーグルト等を取り入れている。 必要に応じて下剤、浣腸を施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯が限定されているのが現状ではあるが出来るだけ個々に沿った対応を心掛け支援している。	トイレにも繋がって失禁時にも対応しやすく、また、複数の職員が介護しやすい小さな浴槽が特徴的な風呂である。3人介助・シャワー浴・仲良し2人組入浴等、様々な状況に合わせた入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床しているのを好む人には自由に横になって頂き、就寝前も本人の納得があるまでホールで過ごして頂いたり、居室でテレビを見てもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会を定期的開催し薬の目的や副作用、効能を理解し個々の服薬状況の把握、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の施設での行事、ボランティアの人が来られた時、皆で参加し気分転換出来る様心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内の畑へ職員と一緒に収穫に行ったり天気の良い日は車椅子の人も全員で日光浴を兼ね、外でお茶おやつを食べれる様支援している。	年間行事や行事参加での外出もなかなか厳しい状態の利用者が多くなってきたが、「近所のやぎさんに会いに行こう」等、今できる範囲の外出を試みている。広い敷地内の散歩も「外の空気を吸おう」と誘っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今の時点では お金の持参はしていない。希望があれば家族と相談して必要な物を持ってきて頂いているので考慮し支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話やお手紙、利用者の要望があれば電話のやり取りが いつでも可能であり、支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいホール内で過ごしてもらったり、又、施設周りに咲いている草花をホールで生けたりしている。 季節感を取り入れた壁飾りを利用者と作成掲示している。	ホールの片隅にうさちゃんや時にワンちゃんも来て皆を和ませている。ホームの建物外の広い敷地やひなた園(野菜の収穫や花)は、季節を感じ、日光浴や軽い運動等も楽しめる有効な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの座席を気の合った利用者同士設けたり、思い思いに過ごせる様 安全面に気をつけながら見守り工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら利用者の使い慣れた物、好みのものを持参してもらい、出来る限り工夫している。 居心地よく過ごせる様 配置にも気を付ける。	「本人が好きだから」と動けないAさんの為に花を飾り続ける家族が居る。氷川きよしが大好きなBさんは部屋に貼ってあるポスターや本を見せてくれたし、居室でラジオや趣味の本を楽しむ利用者も居る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の行動を見守り出来る事を把握し、安全に生活できる様 努めている。		